

ソフトウェア・サービスによる環境貢献

ITを活用して、持続可能な社会の実現に貢献する。
富士通グループが、地球環境のためにできることの一つです。

方針

2003年度より富士通グループでは、ITソリューションの客観的な環境影響評価手法の開発により、“環境貢献効果”が高いITソリューションをお客さまに提供する新たな取り組みを開始しました。エネルギーや資源のムダをなくし、モノからサービスへの転換を促進することで、環境の負荷低減に貢献します。

2004年度の目標

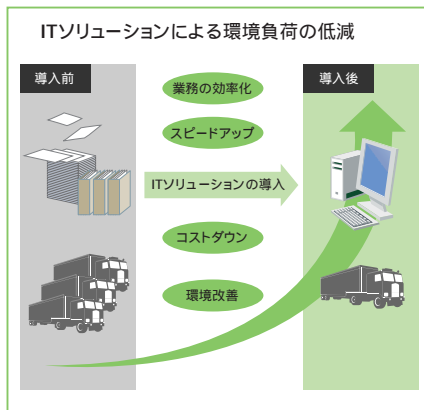
当社ソフト・サービス部門においては環境貢献ソリューション認定制度の本格運用をとおして認定ソリューションの拡大を推進するとともに、2004年度下期からグループ企業での試行運用を開始します。

しくみ

環境ソリューション委員会を中心に、2003年度に全社統合を行った環境マネジメントシステムをとおしてソフト・サービス部門全体への環境活動の浸透と定着をはかります。

1. ITソリューションと環境負荷低減の関わり

ITの普及は、ビジネスやライフスタイルを大きく変化させるとともに、さまざまな環境負荷を低減しています。たとえば工場にオンデマンド生産を導入すれば、部品・製品のムダがなくなり、資源の消費量を抑制できます。また電子会議や音楽の電子配信などにより、人やモノの移動が減少し、交通機関からのCO₂排出が削減されるといった効果が生まれるのです。その一方、パソコン、サーバなどの普及は、電力消費の増加に伴う環境負荷を増大させます。ITソリューションによる環境への影響を評価する場合には、環境負荷の増減をトータルで把握する必要があります。



を対象に、ITソリューション導入による“環境貢献効果”を環境負荷低減効果(CO₂削減効果)として定量的に評価する手法を開発しました。この環境影響評価手法に基づき、より環境貢献効果の高いソリューションを提供していきます。

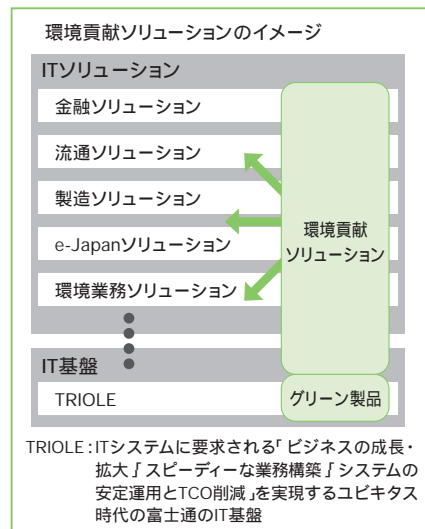
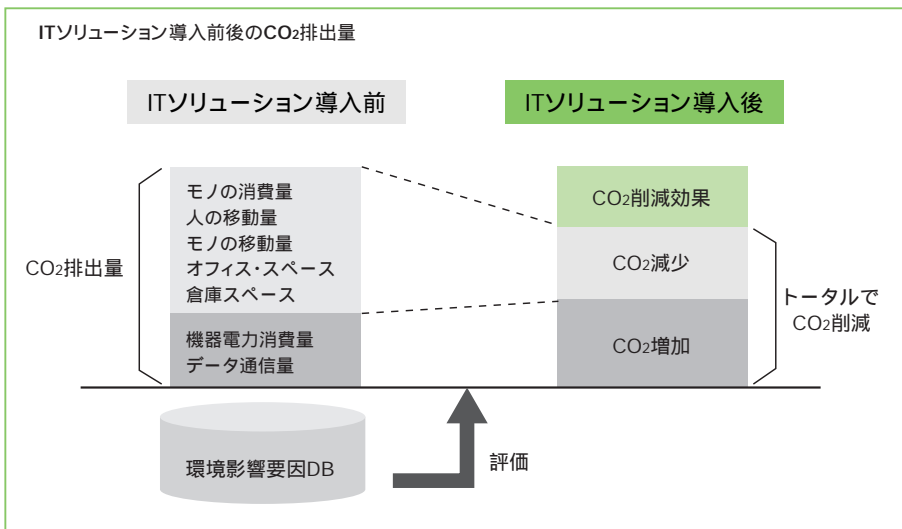
2. 環境貢献ソリューション

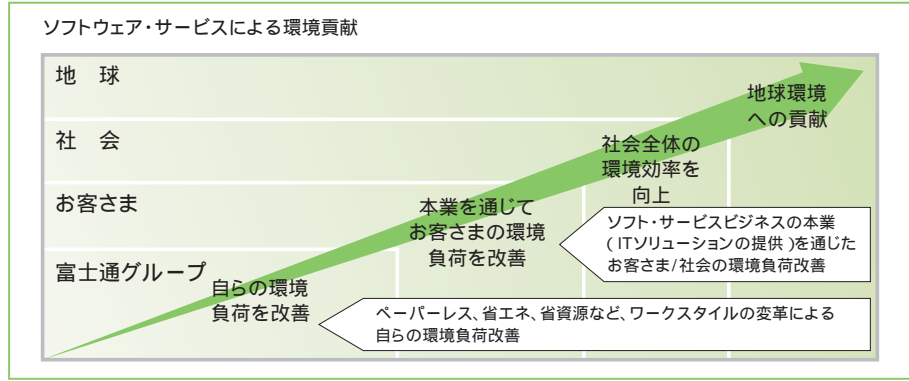
ソフト・サービス環境影響評価手法の開発

ITソリューションによる環境への影響を客観的に把握するために、富士通研究所は、当社が提供する幅広い分野のソフト・サービス

環境貢献ソリューションとは

環境影響評価手法を適用して求められた、導入後のCO₂排出量削減率が15%以上のソリューションをさします。2004年度から、当社ソフト・サービス部門が有する多くのソリューションに環境影響評価を実施し、環境貢献ソリューションとしての認定を積極的に推進していきます。この認定制度を運用することにより、お客さま自身のブランドイメージの向上と、当社ソフト・サービス部門の本業をとおした環境活動を推進します。





3. ソフト・サービス部門の本業における環境活動

ソフト・サービス部門では、ITを積極的に活用することでワークスタイルを変革し、自らの環境負荷を低減することを環境目標に設定して活動しています。また、ITソリューションを提供するという本業における取り組みとして、環境貢献ソリューションの提供などを通じて、お客様や社会全体の環境負荷低減をめざします。

成果

2003年度の目標

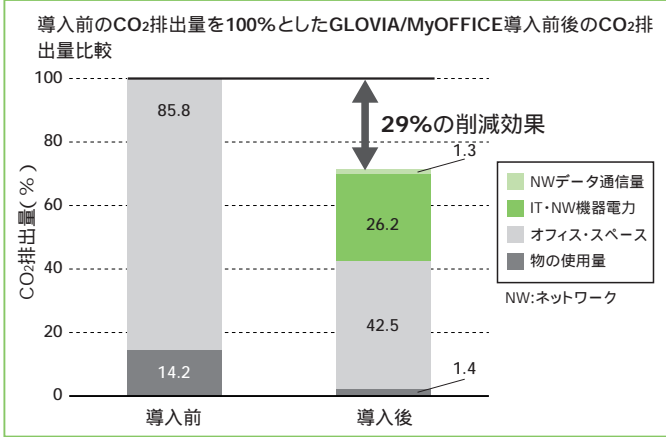
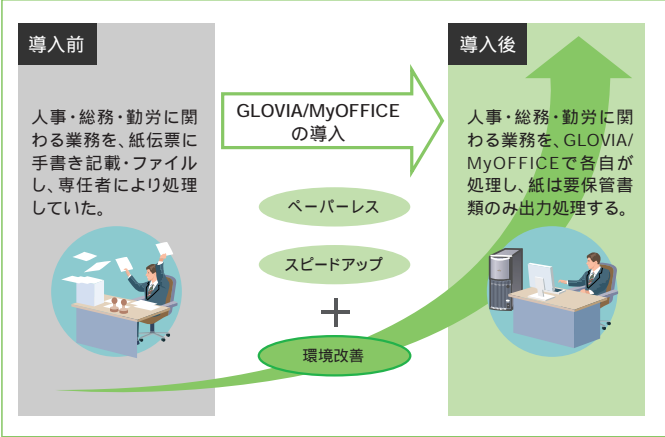
- 環境に配慮したソフトウェア・サービスを認定する社内制度の策定

環境貢献ソリューション認定事例

導入後の環境負荷削減効果が一定基準以上のソフトウェア・サービスを環境貢献ソリューションとして認定する社内制度を策定し、15ソリューションを認定しました。その中から2つの環境貢献ソリューションの環境貢献効果についてご紹介します。

事例1 「GLOVIA/MyOFFICE」(人事・総務関連ワークフロー・パッケージ)

紙の使用量削減、オフィス・スペース削減(効率化による作業工数削減)により環境負荷を低減しました。



事例2 「施設総合管理システムFuturic」(ビル・工場・駅舎・共同溝など各種施設における設備を総合的に管理するシステム)

オフィス・スペース削減(業務効率化による作業工数削減)、IT・ネットワーク機器の電力消費量削減により環境負荷を低減しました。

